

令和6年度全国学力・学習状況調査の分析および考察についてのお知らせ

寒冷の候、日頃より本校の教育活動にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、6年生を対象に4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果をもとに、全学年の職員で課題を分析・考察しました。今後の本校の教育活動について、授業改善を図り、取り組んでいく内容についてお知らせいたします。

〈調査結果〉※県・全国と学年の平均を比較した結果 ○県や全国を上回る。●県や全国を下回る。

国語

- 目的や意図に応じて、文章の内容を分類し、伝えたいことを明確にする。
- 物語文では、人物像や全体を想像し、表現の工夫を読み取る。
- 読書が、自分の考えを広げることに役に立つことを理解している。
- 与えられた情報から、図と語句との関係性を読み取る。
- 「書く」領域で、目的や意図に応じて、事実と感想、自分の考えを区別して文章を書く。
- 自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫して文章を書く。

【後期の国語科における重点指導】

- ・国語科だけではなく各教科においても、授業の中で自分の考えをまとめる際には、目的や視点をもって、分かったことや考えたことをノートなどにまとめられるようにします。
- ・説明文の単元で、事実や考察、筆者の主張を本文中より分類しながらノートに整理し、自分の考えをまとめる力を付けます。
- ・既習の文章構成や表現技法を用いて、紹介文やパンフレット等の文章に取り入れて文章を書く力を伸ばし、自信につなげます。

算数

- 計算の仕方を考え、答えを求める方法を式や言葉で説明する。
- 小数や桁数の多い問題でも正確に計算する。
- 「速さ」の単元で、速さや道のり、距離の関係を理解し、正確に答えを導く。
- 「データの活用」の単元で、落ちや重なりのないようにデータを分類・整理する。
- 「立体」の領域で、これまでの既習内容を活用して体積を求める。(円の直径と正方形の1辺)
- 折れ線グラフや表から、必要な数値を読み取り、考察する。

【後期の算数科における重点指導】

- ・これまでの既習内容をタブレットのデジタル教科書やノートで振り返ることを習慣化し、既習内容と関わらせながら学習を進められるように指導します。
- ・ペアやグループで、自分の言葉で考えを説明し合う活動を充実させ、理解を深めます。
- ・授業の終末のまとめを、自分の言葉で文章にまとめられるようにしていきます。
- ・児童用タブレット端末で「GIFU web ラーニング」や「ミライシード」を活用し、多様な問題に進んで取り組み、多様な問われ方に対応できるようにします。

※裏面もご覧ください。

児童質問紙より

◎仁木小のよさ

- ・自分にはよいところがあると思っている児童が多く、自己肯定感が高い傾向にある。
- ・将来の夢や目標をもっている児童が9割以上いる。
- ・学校に行くのは楽しいと思っている。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が多い。
- ・人が困っていたら進んで助けようとしている。
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。

■仁木小の課題

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝起きしている。
- ・学校の時間以外に、平日1時間以上家庭学習に取り組んでいる。
- ・家庭でインターネットやスマートフォン、ゲームなどを使用するとき、約束を守れないことがある。
- ・国語や算数の学習内容をよく理解できていないと実感している。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。

《今後の学校教育》

- ・「明日も学校に行きたい」と全ての児童が思ってくれるように、誰もが活躍し、誰もが認められる学級経営の充実を図ります。(学級活動、児童会活動、ボランティア活動を通して)
- ・全職員が全児童の担任であるという意識をもって、児童理解に努めます。また、教育相談を充実させ、不安や悩みがある児童が相談しやすい環境づくりを目指します。
- ・年に7回行っている「なかまアンケート」の行い方を見直していきます。家庭で書いたり、タブレットの「クラスルーム(アンケート機能)」を活用して担任に直接送ったりするなど、不安や悩みを発信しやすい環境を整備します。子どもの不安や悩みをいち早くキャッチして、解決できる方策を講じていきます。
- ・自分に必要な学習内容を、自分で考えて行える習慣が身に付くよう、中学年より自主学習の価値や取り組み方法を指導し、自ら学ぶ主体性を養っていきたいと思います。

《ご家庭で大切にしていきたいこと》

- ・睡眠時間が不規則な傾向が見られます。情報機器端末の使用時間や、管理場所など約束を決めていただき、心と体の健康づくりに努めていただけるとありがたいです。
- ・SNSを介した児童生徒間のトラブルが全国的に増加しています。学校でも情報モラル教育の充実を図りますが、ご家庭でもお子さんの使用状況を把握し、安全に使用させていただけると幸いです。